

平成15年12月期 第1四半期業績の概況 (連結)

平成15年5月14日

上場会社名 東燃ゼネラル石油株式会社

(コード番号: 5012 東証第一部)

(URL <http://www.tonengeneral.co.jp>)

問合せ先

代表者 役職名 代表取締役会長兼社長

(TEL: (03) - 5425 - 9000)

問合せ責任者 役職名 エクソモビル(有)取締役 人事・広報渉外本部長

氏名 ジー・ダブリュー・ブルーシング

氏名 内村 敏郎

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高又は売上高に相当する事項の会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 有 (無)

2. 平成15年12月期第1四半期業績の概況 (平成15年1月1日 ~ 平成15年3月31日)

(1) 売上高又は売上高に相当する事項等

(注) 百万円未満切捨て

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
15年12月期第1四半期	571,898	(-)	6,854	(-)	7,853	(-)	6,186	(-)
14年12月期第1四半期	-	(-)	-	(-)	-	(-)	-	(-)
(参考)14年12月期	1,928,868		4,840		8,261		8,474	

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
15年12月期第1四半期	10	46	-	
14年12月期第1四半期	-		-	
(参考)14年12月期	13	92	-	

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示す。

第1四半期の連結売上高は販売数量の増加並びに販売価格の上昇により5,719億円となりました。また、連結営業利益は69億円となりました。厳しい石油製品市況によりガソリンや軽油のマージンが前年同期比で低下しましたが、ガソリン、灯油の販売数量が各々9.5%、7.0%伸びたため、マージンの低下を一部相殺しました。石油部門の収益は、在庫変動に伴う評価差34億円(キャッシュ・フローへの影響はない)が含まれています。化学部門では、パラキシレンの販売が好調に推移し、マージンが改善したこと等により収益に大きく貢献しました。さらに、営業外利益を10億円計上したことにより、経常利益は79億円となりました。営業外利益には主に持分法適用会社の収益と為替差益が含まれています。

以上の結果、連結純利益は資産の売却等による特別利益30億円を計上したことにより62億円となりました。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

【財政状態 (連結) の変動状況】

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり 株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
15年12月期第1四半期	904,206	211,814	23.4	357	88
14年12月期第1四半期	-	-	-	-	
(参考)14年12月期	964,494	216,638	22.5	366	03

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
15年12月期第1四半期	21,896	739	22,100	1,134
14年12月期第1四半期	-	-	-	-
(参考)14年12月期	25,596	11,742	39,827	1,670

平成15年3月末の総資産については、平成14年12月末比603億円減少の9,042億円となりました。これは主として、12月末における金融機関休業による決済のずれ込み等の要因により売掛金、未払揮発油税等の残高が減少した事によるものです。また、株主資本は配当金の支払等により平成14年12月末比48億円減の2,118億円となりました。

平成15年第1四半期のキャッシュ・フローについて、営業活動によるキャッシュ・フローは、主として12月末の揮発油税等の決済が金融機関休業のため年初にずれ込んだのに対し、3月末には決済が行われたため219億円となりました。また、投資活動によるキャッシュ・フローについては、各工場における製造設備の効率化、サ・ビスステ・シヨンの設備改造などの設備投資を実施したものの、有形固定資産及び投資有価証券の売却による収入により7億円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、主として12月末の揮発油税等決済が年初にずれ込んだのに対し、3月末には決済が行われたため短期借入金が増加し221億円となりました。これらの結果、現金及び現金同等物の期末残高は、平成14年12月末比5億円減少し、11億円となりました。

3. 平成15年12月期の中間連結業績予想 (平成15年1月1日～平成15年6月30日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	円	銭
中間期	980,000	14,000	11,000	18	59

平成15年12月期の中間期連結経常利益は本年2月に発表した前回予想より30億円の上方修正となり、140億円となる見込みです。第1四半期並びに4月の業績が前回予想を上回るためです。尚、第1四半期に発生した在庫評価益は第2四半期中に相殺され、営業利益に影響しない事を想定する一方、原油価格の急落に伴い改善したマージンは、今後低下する可能性を想定しています。

なお、本年2月には連結ベースで売上高19,900億円、経常利益280億円、当期利益240億円の通期業績予想を発表しています。しかしながら、現時点では原油価格やマージンの動向など不確定な要素があり、十分な情報がないため、通期業績予想の修正はいたしません。通期業績予想については、8月の中間決算発表の時点で再度検討いたします。同様に一株当りの年間36円の配当予想も現時点で変更いたしません。

(参考)平成15年12月期の中間個別業績予想 (平成15年1月1日～平成15年6月30日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり年間予想配当金		
				中間	期末	
	百万円	百万円	百万円	円	銭	円
中間期	1,000,000	14,000	10,000	18.00	18.00	36.00

前記の業績予想は、現時点における情報に基づき当社の経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみで全面的に依存した投資判断はお控え下さいますようお願いいたします。当社グループの業績は、石油・石油化学事業を中心とした経済情勢や市場動向並びに為替レートの変動等の要因により、予想とは異なる結果となる可能性がある事をお含み置き下さいますようお願い申し上げます。